

総務産業建設常任委員会行政視察 (新潟県・三条市、十日町市、小千谷市)

■三条市では廃校を利用した『三条ものづくり学校』を視察しました。コワーキングスペースを利用する企業間の交流から新しい企画が生まれ、情報発信力強化や次世代人材の育成など地域活性化に繋がると学びました。

■十日町市では『地域自治推進事業』について視察しました。未来に元気な地域を残すため、各自治会に分配された交付金を活用し、住民が主体となって地域の特色を活かしながら、課題解決や地域の活性化に取り組むもので、これからのまちづくりの参考となりました。

また、ふるさと納税については、課をまたいだプロジェクトチームを設置し、企画立案からポータルサイト充実まで、納税額増加に向けた積極的な取り組みがとても参考になりました。

■小千谷市では『おぢやしごと未来塾』を視察しました。産業界・学校・行政が連携し市内企業紹介や職業体験発表、意見交換会を開催し、産官学連携によるキャリア教育を実施しています。地域の子どもたちが大人になって地元に戻り、地域を守り育てていってほしい。そんな願いのこもった施策を学びました。

■今回の視察で学んだ内容を今後の活動にしっかりと活かしていきたいと思えます。



民生教育常任委員会行政視察 (岡山県・高梁市、奈義町、美咲町)

■高梁市では地域学校協働活動(地域と学校の連携・協働のもと子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動)について学びました。子どもを取り巻く環境から課題を捉え、『まるごとCAMPUS』という仕組みを構築し、地域への愛着が湧くことを目指しています。

■奈義町では子育て支援について学びました。人口6000人ほどの町が特殊出生率2.95と非常に高いことで奇跡の町と言われ、岸田総理も視察しています。子育て支援を進めることが高齢者福祉に繋がり、地域を残すことになるということを住民が意識しているところは、美濃市にも取り入れたいことだと学びました。

■美咲町では小・中学校の9年間を一貫して行う義務教育学校について学びました。少子化による小学校や中学校の統廃合だけではなく、地域づくりのためにも、これから必要となる義務教育の形です。

■今回の視察により美濃市でも必要な活動を取り入れ、未来に向けて検討し続けることの大切さを学びました。



岐阜県市町村議会議員セミナーに参加しました

「これからどうする? わがまちの未来~変化や多様性と向き合う時代の市町村議会議員への期待~」というテーマで、NPO法人 日本ファシリテーション協会フェロー・加留部貴行先生の講演を拝聴いたしました。

これからの時代は変化のスピードがさらに加速し、複雑性が増大し、多様性が高まります。新たな時代に向き合うためには、例えば「大人×中高生」のように、多様な主体による「対話」=「聴く」×「話す」を通じて持続可能な地域社会の基盤を創ること、現場感覚をお互いに持ちながら、連携・協働していくことが大切であることを学びました。



※令和5年度補正予算、条例の制改定等について審議します。

令和5年第5回定例会の日程

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| ・12月 4日(月) 10:00 本会議 | ・12月 18日(月) 10:00 総務産業建設常任委員会 |
| ・12月 14日(木) 10:00 本会議(質疑・一般質問) | ・12月 19日(火) 10:00 民生教育常任委員会 |
| ・12月 15日(金) 10:00 本会議(一般質問) | ・12月 21日(木) 10:00 本会議 |

★編集後記★
行政視察に行って参りました。今やネットで様々な情報が手に入れますが、やはり現場で感じる温度感は全く違います。成果を活かしていけるよう、日々精進です。

連絡先 市議会だより編集委員
電話 : 0575-33-1122(内410-411)
E-mail : gikaimino@gmail.com
編集委員: 鈴木美智子(委員長) 池村周二(副委員長) 渡辺暁典 古田伸享 井川竜徳 古田優 後藤研也 須田盛也 辻文男

★マチイロ★
市議会だより・広報みの がアプリで読めます。

iOS用 Android用

みの市議会だより

【No. 14】
美濃市議会
令和5年12月発行



令和5年第4回(9月)美濃市議会定例会について
会期を9月4日から9月26日までの23日間として開催しました。
令和4年度決算認定8件、令和5年度補正予算3件、条例改正2件、人事案件2件、その他1件を審議し、決算8件を認定、補正予算、条例改正、その他案件6件を可決、人事案件2件に同意しました。
今議会の一般質問には、10名の議員が登壇し、2日にわたりそれぞれ市政一般について質しました。

9月 4日(月)・・・本会議(議案説明等)	20日(水)・・・総務産業建設常任委員会
14日(木)・・・本会議(一般質問7名)	21日(木)・・・民生教育常任委員会
15日(金)・・・本会議(一般質問3名)	22日(金)・・・民生教育常任委員会
19日(火)・・・総務産業建設常任委員会	26日(火)・・・本会議(採決)

※今回の議会だよりは、一般質問の登壇者が10名となったため、審議した議案の掲載を割愛し、8月実施の議員研修、10月実施の行政視察のレポートを掲載しました。
審議議案等は、[美濃市ホームページ](#)→[行政情報](#)→[美濃市議会](#)→[会議の情報](#)→[議案の概要/議決結果](#)でご確認いただけますようお願いいたします。



9月議会 各議員による一般質問

質問の詳細情報は、記載の二次元コードより視聴できます。

① **渡辺暁典 議員**
(新しい風)



② **辻 文男 議員**
(しんし)



■個別避難計画について
問: 現在の進捗状況はどのようか。
答: 自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員・ケアマネジャーなどの協力をお願いし、作成を進めていく。

■美濃市の福祉避難所について
問: 美濃市が指定している福祉避難所との運営に関する取り決めはどのようか。
答: 現在は協議の上決定することになっている。今後は協定を結んでいる社会福祉施設との連携を図り、更なる拡充のため通所介護施設との協定についても検討していく。

■土砂災害ハザードマップについて
問: 今後過去の氾濫、土砂災害箇所が記載されたマップを作成する予定はあるか。
答: 現在のところ作成の予定はないが、地域ごとの自主防災組織などが作成する新たなハザードマップ作成に対して市として支援しながら地域の防災意識向上を図る。

■半道地域の避難について
問: 大矢田もみじトンネルが通行止めになった際の対策についてはどのようか。
答: 大矢田もみじトンネルの通行止めも含め、的確な情報の発令と避難所開設を行う。

■余取川7号橋(西市場地内)の復旧について
問: 現在の状況はどのようか。
答: 8月16日の台風7号による豪雨で余取川が増水したことで、河床が洗掘された左岸下部が流出し、両側地覆が川に落ちる被害が発生した。
現場の対応として、被災した地覆部の撤去を行った後、河川管理者である県美濃土木事務所において、余取川護岸の応急対策として、袋詰玉石による保護工を完了した。
問: 復旧作業に着手するまでの課題はどのようか。
答: 橋梁に添架されている通信事業者の占用物件の切り回しに時間を要している。
占用物件の撤去がされ次第、橋梁の撤去を進める計画である。
問: 復旧作業が完了する時期の見込みはどのようか。
答: 国の補助金を活用する公共土木施設災害復旧事業として、採択に向けて準備中で、工事の発注時期も決まっていない状況である。
従って、復旧工事の完了時期については未定であるが、早期に完了できるよう努める。

9月議会 各議員による一般質問

質問の詳細情報は、記載の二次元コードより視聴できます。

二次元コードの接続先は、YouTubeの動画配信です。

③ 須田盛也 議員 (無会派)



■地域と共に歩む学校づくりについて

問：地域学校協働本部の設置が必要であると考え、教育委員会の取組はどのようなか。

答：地域学校協働活動を推進する体制として、第2期美濃市教育大綱に基づき、地域全体で未来を担う子どもの成長を支えていくための様々な活動を行う美濃市地域学校協働本部の設置を目指している。そのために、地域学校協働活動を推進する団体である公民館連合会、社会教育委員の会、地域活動団体等の方々に説明を行っている。今後、これらの団体等を対象とした研修会を予定し、各団体の今後の活動のあり方についても検討して頂きながら美濃市地域学校協働本部を設置していく。

■美濃市・土幌町交流事業について

問：土幌町訪問団の団長として訪問された際の懇談等は、どのようであったか。

答：大規模災害時における相互連携の可能性、交流事業のあり方や美濃市総合フェアにおける土幌町特産品販売計画等が話題にあがった。また、土幌町が力を入れている「ふるさと納税」に関する戦略についても話を伺い、今後職員間でオンライン勉強会を開催し、相互の税収アップにつなげたい旨を提案した。

⑤ 古田 優 議員 (新しい風)



■長良川遊水地事業について

問：現在の進捗状況と説明会を含む今後の予定はどのようなか。

答：国交省よりこれまで中有知地区の役員を対象に、遊水地整備と道塚堤防の老朽化対策の説明があった。本年度は地元の理解を得て、老朽化対策工事を進め、まず中有知地区の役員を中心に説明会を行う予定と伺っている。

問：遊水地の利活用はどのように考えているか。

答：遊水地底部の平地を子供たちが運動したり、市民の健康増進を図る場所としたい。

■河川維持管理について

問：美濃市が管理する河川の堆積土・支障木の状況把握とその対策についてはどのようなか。

答：日常パトロールや市民や自治会からの情報により、必要性を勘案しながら対策したい。

■有害鳥獣被害防止対策について

問：現状の有害鳥獣被害防止対策と今後の課題についてはどのようなか。

答：鳥獣被害対策実施隊による捕獲、大型捕獲檻の設置支援、防護柵や電気柵の購入助成、サル追い払い隊に対するロケット花火等の購入助成他。正しい被害防止対策を行うため、専門家による研修会の開催を予定している。

④ 古田伸享 議員 (新しい風)



■美濃市消防団の再編について

問：第2期計画策定の進捗状況はどのようなか。また、再編を進めるにあたっては自治会の理解が必要と考えるがいかがか。

答：令和6年度に第2期計画の策定を進めることとしている。

なお、消防団再編を進めるにあたっては、現行計画と同様に、自治会や消防団に丁寧な説明を行っていく必要があると考える。

■消防団のなり手の確保について

問：自治会を経由した団員募集を推進することはできないか。

答：団員による勧誘、自治会からの依頼だけでなく、学校や企業などの協力・理解を得て消防団への入団者を募っていく必要があり、市も団員確保について支援をしていく。

■消防団の活動に関する環境の整備について

問：火災現場等に向かう際に利用する団員の自家用車への損害補償はできないか。

答：自家用車が加入する自動車保険などで対応してもらうほか、全団員が加入する自動車等損害賠償見舞金支給制度（最高10万円の支給）もあり、消防団の会議などで周知している。

⑥ 後藤研也 議員 (日本共産党美濃市議員団)



■のり愛くん(乗り合わせタクシー)について

問：新しいシステムに移行してからの問題点及びその対策はどのようなか。

答：配車の効率を高めるため、配車を地区ごとから全域に見直したが、乗車時間が長くなる場合や、配車が一つの地区に偏った場合、他地区では希望の時間に乗車予約できないケースも発生している。

今後、配車を再度見直すとともに、予約や運行等に係るデータを活用し、改善点を洗い出し、システムの運用改善を図りたい。

■左岸道塚堤防の老朽化対策について

問：左岸堤防の老朽化対策は昨年度に予算化されていたのに不執行となったのはなぜか。

答：「一部の方がまだ遊水地の事業内容に疑問があるなど理解が得られていない、十分な理解を頂くには時間が必要として不執行になった」と国土交通省木曽川上流河川事務所より聞いている。

国としては「今年度も左岸堤防老朽化対策の予算が計上されているので、地域の安全性確保のためにも地域の皆様のご協力をお願いして年度内には老朽化対策の工事に着手したい」と伺っている。

⑦ 山口育男 議員 (美濃市議会市政クラブ)



■おくやみコーナーの開設について

問：家族が亡くなられた際、現状の窓口対応はどのように行っているのか。

答：死亡届を受理した時に、手続きの種類や必要なもの、受付窓口を記した一覧表を渡し、後日、ご家族の方が来庁した際、関係各課の担当者をご家族のいる受付窓口で入れ替わり対応し、移動することなく手続きを行うことができる体制としている。

問：おくやみコーナーを開設してはどうか。

答：本市では、他市と同様にワンストップサービスを行っていると考えている。

■離婚前後親支援事業について

問：本市における離婚する際の家庭相談の体制はどのようなか。

答：家庭内における子育て等に関する相談と同様、市の家庭児童相談員が対応している。

問：離婚後の子の養育費確保のため、公正証書の作成及び弁護士への相談に関する費用補助を行ってはどうか。

答：国はモデル事業を実施し、「こども大綱」の中でも支援策の拡充を検討しており、窓口での相談内容等を踏まえながら、国の動向を注視していく。

⑨ 井川竜徳 議員 (公明党美濃市議員)



■国民健康保険加入者の特定健康診査及び国保ドックについて

問：令和4年度と今年度の受診状況はどのようなか。

答：特定健康診査については、令和4年度の受診率は30.9%で、今年7月末時点の受診率は6.6%、令和4年7月末時点と比較すると受診者51人増、受診率は1.8%増。国保ドックは令和4年度の受診率は22.5%で、今年7月末時点の受診率は4.9%、令和4年7月末時点と比較すると助成対象受診者24人減、受診率で2.7%減である。

問：受診率向上の為の具体的な取組はあるか。

答：今年度からの新たな取組は、国保ドックについて助成対象に40歳、45歳を追加し、実施時期も2カ月間拡大した。

又、特定健康診査の未受診の方に送付内容、送付時期を工夫しながら受診勧奨を行っているところである。

今年から始めた助成対象年齢の追加や実施時期の拡大についての効果を適切な時期に分析し、受診向上に向けて引き続き取り組んでいく。

⑧ 池村周二 議員 (無会派)



■豪雨など災害緊急時の連絡網と防災士の養成について

問：各自治会及び市民への連絡方法について、どのようになっているのか。

答：同報無線、あんしんメール、ケーブルテレビ、SNSで発信しており、特に警戒が必要な場合は、エリアメール発信やサイレン吹鳴も実施する。

問：市内に防災士は何人いるのか。職員及び担当職員の中にもいるのか。

答：美濃市在住者は29人。うち2名が市職員だが、防災担当職員にはいない。

問：職員の防災士資格取得、また市民への防災士養成の実施及び資格取得費用の補助はあるのか。

答：市の防災担当職員は、県が主催する防災研修などに参加し、知見を得るよう努めている。市民への資格取得支援は、必要な経費について、3万円を上限に補助しているの、活用いただきたい。

⑩ 鈴木美智子 議員 (無会派)



■総合相談窓口の設置について

問：包括的な総合相談支援体制の整備に対する取組状況はどのようなか。

答：介護、障がい、子育て、生活困窮などの相談についてそれぞれに相談窓口を設けており、令和4年度の延べ相談件数は2247件。相談者やその家族が複数の問題を抱えている状況が増えており、関係する課・係で速やかに情報共有を図り、横の連携による相談支援を行っている。

また、関係部署の担当者が月1回集まり、意見交換したり、複雑化・複合化する困難事例について専門家から助言をいただくなど、担当者の資質向上を図っている。

■地域活動支援センター みのりの家作業所について

問：ひきこもり等の方々が社会復帰を考える際の選択肢として活用できないか。

答：「8050問題」対策は必要だが、家庭内のプライバシーに立ち入ることは難しい。まずは安心して相談できる環境を作ることが重要であり、社会復帰の第一歩となる居場所づくりなど、対応を模索していく。